

銀座水族館(七つの海の魚および水産切手)



—30—

三崎出張所 神原 勇

ニシン
 分類 ニシン目 ニシン科
 学名 太平洋産 *Clupea pallasii*
 大西洋産 *Clupea harengus*
 英名 Herring
 和名 ニシン・カド・カドイワシ

ニシン漁業は江戸時代末期、大正、戦前の昭和迄、現在では想像のつかないほど隆盛を極め、大正末期の日本の総漁獲高の3割を占めた程度で、北海道の日本海側即ち西海岸の諸所に金をあかして建てた豪荘なる「ニシン御殿」が当時の名残をとどめている。

北海道のみならず日本の有数なる民謡として著名なるソーラン節は、ニシンの角網(定置網の一種で形状は長方形の網で入口が閉じられるように作製されている)に入ったニシンをタモ網ですくい、運搬船に移す時にヤンシュウ達(若者達)が掛声高く威声良く歌う囃歌であり音頭である。

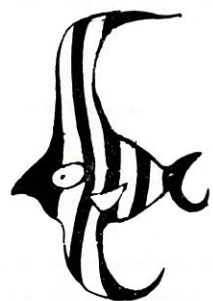
筆者の学生時代、ニシン漁業実習(ニシンバ)が正課であったので、三月の期末試験もそこそこに北海道西海岸増毛から羽幌にかけての網元に配属され、焼尻島(利尻島南方の直径4km位の小島)もその一つであった。三月末のどんよりと雲のたれこめた風の全く凪いだ静かな夕刻に、ニシンは大挙して産卵のため波打ち際にまで押寄せ。雌は3~4万の卵を浅瀬の海草などに産みおとす付着卵であるが、雄はところかまわず放精するで、沿岸水域は一面に白一色となり、牛乳風呂を想像されればこの光景は再現されるでしょう。このことを群来る(クキる)と称するが、一方定置網は放卵すると網の目がつまって揚網する事が出来なくなるので、定置網の入口を監視しつつづけていたらり舟から入網の知らせで、総員スタンバイの命のもと揚網即ち網起しにとりかかる。又近くに投網した刺網も同時に揚網開始。刺網の目が認められない程ニシンが刺さり、ケラガガリと呼ばれるが揚網した網はそのまま舟にとりこまれ、明け方より網に刺ったニシンの取り外し作業に入る。定置網のニシンが専ら運搬船に積み替え内地へ輸送され鮮魚とされるのに比べ、刺網で漁獲されたものは雪混じりの凍てつくよう

な広場に野積みになって、定置網の仕事の合い間を見て身欠きニシンに加工される。このとき数の子は選り分けられ貯蔵される。

受精卵は1ヶ月位で孵化し3~4年で成熟するが、前述のニシンは7年生の脂ののりきった大型魚で、近年オコック海方面で北転船により漁獲される油ニシンより遙かに大型種である。

昭和30年頃より全く姿を見せなくなった北海道西海岸のニシンは海流異変によるものといわれている。即ち日本海を日本沿岸に沿って北上する対馬海流が次第にその勢力が強まって樺太から南下する寒流を北海道沿岸から締め出したため、対馬海流には窒素やリン酸類などの栄養物が乏しく且又高塩分であるのに比べて、塩分が少なく栄養分に富んだ寒流がニシンの生息孵化に適しているためである。

ニシンの別名のカドはアイヌ語で、数の子(カズノコ)は「カド(鱈)ノコ」のなまったものである。ニシンの漢字は鱈で東海の魚の意で、鮭(ニシン)は開いた乾製品を指す。



ニシン

分類 : ニシン目 ニシン科
 学名 : 太平洋産 *Clupea pallasii*
 大西洋産 *Clupea harengus*
 英名 : Herring

太平洋産ハ 北海道・サハリン(樺太) オコック海・ベリツグ海・北米沿岸に分布シ、ソノ南限ハ太平洋側リハ 茨城県洞沼、日本海側リハ 新潟県トツラカ。大西洋産ハ 北部トソノオランダ海・北海・バルチック海・白海・バルチック海等ヲ 寒流域ニ生息ス。タラト共ニ世界ノ大漁場ノ主要魚ノ一ナル。太平洋ト大西洋産トノ間ニ形態的ニ差異ヲ認メラレ別種トカレカガ。個体間ニモ形態、相異カ大キクハ同一種トスベキナハトモ認メラレ 湖沼型トヨバレ汽水淡水ヲ産卵スルモノモアル。魚鱗ニシテニシン燻製、粕漬、カズノコ等利用度モ高ク、日本人ハ特ニ此ノ魚類ノ一ナル。



アイスランド -1942



-1943



-1939



-1939



-1940



-1943



西ドイツ -1964



ハンガリー -1969-



ルーマニア -1960